

# Kansai

会報

No. 117

1993

JULY





## 目 次

|                                    |             |
|------------------------------------|-------------|
| 仲村 眞理事長日本ハーモニカ賞を受賞                 | 2           |
| 第4回関西ハーモニカ祭の開催                     | 3           |
| 春夏秋冬……夏                            | 4・5         |
| 楽しきかな、わがハーモニカ人生                    | 6・7・8       |
| 数字譜で綴られた「青い山脈」                     | 9           |
| How To Enjoy Ensemble (9)          | 10・11・12・13 |
| ビート・ピーダスン歓迎レセプション                  | 14          |
| 井上隆寿追悼&小林ファミリーの集い                  | 15          |
| 会員からのお便り……藤本初之助                    | 16          |
| 「宇治 '93 Music フェスティバル」に宇治H.スクールが出演 | 17          |
| 第7回北千里ファミリー・コンサート                  | 17          |
| まちなみコンサートと、京都「楽しいコンサート」            | 18          |
| 第7回アンデパンダン・コンサート                   | 19          |



仲村 眞 理事長

## 『日本ハーモニカ賞』

### を受賞

平成5年5月3日、東京で開催された《ハーモニカ・フォーラム'93》において、本連盟理事長仲村 眞氏が関西地区におけるハーモニカ音楽の普及・発展に貢献されたことにより、主催者である全日本ハーモニカ連盟会長真野泰治氏から「日本ハーモニカ賞」が授与されました。

この賞は、わが国のハーモニカ音楽の発展に尽くしたり、ハーモニカを通じて社会に貢献した個人・団体に毎年与えられるもので、1978年に全日本ハーモニカ連盟が制定、これまでに153件の受賞者がありました。コンテスト以外に与えられるハーモニカの賞としては世界で唯一のものであります。

なお、仲村理事長のご尊父である故仲村洋太郎氏は、理事長と同じ医師であって、ハーモニカ音楽に絶大な情熱を燃やされ、その偉大な功績に「日本ハーモニカ賞」が贈られていました。

ここに、ご父君の意志を受け継ぎ、ハーモニカ音楽の普及に徹しておられる仲村理事長に対し、心からお祝いを申し上げます。

# 第4回関西ハーモニカ祭

## 出演者募集

本連盟主催の第4回ハーモニカ祭が、本年10月に開催が決定しました。場所は大阪府和泉市の市立コミュニティーセンターです、新しい素晴らしいホールで開催されることになりました。前回に優るとも劣らない盛大な催しとするため、会員諸氏の多数のご出演をお願いいたします。

開催日までまだ日はありますが、今から練習に励んで下さい。出演申し込みの要領等は次のとおりです、期日までに所定のお申し込みを完了して下さい。

|      |  |
|------|--|
| 開催日時 | 平成5年10月10日(日曜日) 午前10時～午後5時                                     |
| 場 所  | 大阪府和泉市府中町2丁目7-5<br>(JR阪和線和泉府中駅下車、徒歩和歌山方面へ5分)<br>和泉市コミュニティーセンター |
| 名 称  | 第4回関西ハーモニカ祭  |
| 主 催  | 関西ハーモニカ連盟  |
| 後 援  | 全日本ハーモニカ連盟<br>日本ハーモニカ芸術協会<br>ニッポンハーモニカクラブ<br>FIH世界ハーモニカ連盟日本支部  |

### 【 出演者募集要領 】

- 内 容 独奏・重奏・アンサンブル・合奏の各部門  
独奏・二重奏～4分以内、  
トリオ以上アンサンブル・合奏等～8分以内
- 出演資格 本連盟会員のどなたにも出演していただけます。  
この機会に入会された方にも出演していただけます。
- 出演負担金 ソロ部門・二重奏 7,000円を負担していただきます。  
トリオ以上のアンサンブル・合奏部門  
10,000円を負担していただきます。
- 申込方法 郵便振替払込用紙に詳細ご記入のうえ負担金とともに、最寄の郵便局へお払い込み下さい。  
(郵便振替払込用紙は郵便局にも備付けております、グループ等で記載事項の多い場合は、明細を事務局へお送り下さい。)
- 郵便振替払込番号等 □座番号 大阪5-115527  
加入者名 関西ハーモニカ連盟
- 申込締切日 平成5年8月31日

春・夏・秋・冬

夏

斎藤寿孝

## 「宵待草」から日本人の情緒を知る

待てど暮らせど来ぬ人を、宵待草のやるせなさ……という歌には、夏の夕べに咲いて翌朝にはしぼんでしまう、はかない運命の宵待草と自分のそれとを重ね合わせた比喩があるわけですが、日本人にはこういう感傷がよく理解できますから、あまり深く追究しません。しかし、西欧人の合理主義はちょっと違います。私の友人のフランス人（たいへんな日本通です）にこの話をしたところ、早速彼は私にレポートしてくれました。それによるとこうです。まず、宵待草（よいまちぐさ）ではなく待宵草（まつよい草）というのが正式呼称だそうです。それから月見草と待宵草とは違うんだそうです。太宰治は「富士には月見草がよく似合う……」などとその小説に書いていますが、あれは実は大待宵草と言うんだそうです。月見草は野生せず、花も白いらしいのです。（興味のある方は調べてみて下さい）

われわれの宵待草＝待宵草＝月見草というイメージは、このレポートのために根底から崩されてしまいました。彼が得意になっているところに私は言いました。「あいまいなものを明確にせず、触れないところに日本人の情緒がある。それがわからないうちは、まだ君の日本研究も本物ではないね……」

ちなみに「宵待草」という曲は、故宮田東峰先生の十八番でした。

## あなたの「昂」を見つけよう

スバルを外国語だと思っていらっしゃる方もあると思います。ところがこれは立派な日本語なのです。漢字では「昂」と書きます。牡牛座にある肉眼では六つある星の名前です。

これとよく似た字に「昂」（こう）という漢字があります。意気軒昂など気力の高まる様、激昂など物価の上がる様を表わす言葉です。

いま皆さんが練習していらっしゃる谷村新司の「昂」は、楽譜によっては「昂」となっているものがありますが、これはあやまりです。

星の名前にはギリシャ語が多いようですが、日本語も結構多いようです。特に星座の名前は全国にいろいろの和名があることが野尻抱影という人の研究によってわかりました。

例えばカシオペア座を「イカリ星」と呼んでいたり、双子座のカストール、ポルクスの二星は「かれいの目」と呼ばれたりしています。

だんだん星の美しく見える季節になってきました。天でも仰いでどこに「昂」があるのか見つけてみましょう。星に関心を持ちましょう。あなたの「昂」はキットその輝きを増すことでしょう。

## 「夏は来ぬ」考

五月になると、ときどき夏を思わせるような暑い日差しを感じることがあります。そういう日が続くと、夏が近いことに気付きます。五月は皐月（さつき）と呼ばれますが、旧暦では卯月（うづき）となり「卯の花の匂う垣根にほととぎす早もきな





きて、忍音もらす夏は来ぬ……」という佐々木信綱作詞の歌をすぐ思い浮かべます。

この歌の作曲は小山作之助という方で、明治14年から45年ぐらいの間に「敵は幾万」「漁業の歌」「川中島」などの歌も作っておられます。当時の音楽的状况は今日とはまったく異なり、街には邦楽の音が流れ、洋楽は小学校で教える唱歌しかありませんでした。その唱歌も日本人にすぐ歌えるように日本の因習的な音階で作られました。

この「夏は来ぬ」もペンタトニック、いわゆるヨナ抜き音階のメジャーですが、はじめの部分に4（ファ）を使っているところが、特徴的です。傑作として後世に残る所以でしょう。

### 音楽家を作ったカラーフィルム

1930年、アメリカのフィルム・メーカーのE. コダック社はカラー・フィルムの開発を手がけていました。この研究室からは、いつも器楽合奏や合唱の音が聞こえてきました。

そして5年の月日が経ちました。E. コダック社は、世界で最初のカラー・フィルムを発表しました。開発者はニューヨークから来たゴドフスキーとマネスという二人の若い音楽家でした。二人は演奏活動の暇に素人ながら研究を続け、その才能とノウハウを買われてE. コダック社から研究室へ招かれたのでした。

二人は音楽家としては名前を残しませんでした。写真の歴史には永遠にその名を刻んだのでした。6月1日は「写真」の日だそうです。

### 琴瑟相和す

瑟という楽器をご存じでしょうか？ 古代中国の楽器で、今はもう出上品としてその面影を忍ぶしかありませんが、その楽器を復元して鳴らしてみようという試みが7月にありました。早速、国立劇場へ行ってきました。

外見は琴の幅広のような感じで、長さは約1米、弦は25弦あります。これらの弦は内（9弦）、中（7弦）、外（9弦）、の三つに分けられ、手前に高く向こうへ行くに従って低く調律されています。音高は柱（じ）を立てて調節します。これは今日の箏と同じです。（ちなみに、日本で琴とっているのは箏のことで、琴には柱がありません）外弦と内弦は右手で弾き、中弦は左手で弾きます。これが後に二つに割られて箏となったとも言われています。

一本の弦で一音しか演奏できない瑟に対して、琴は一本の弦で複数の音を弾くことができます。お互いの長所を出しあい、短所を補い合うことから「琴瑟相和す」という言葉が生まれました。

全日本ハーモニカ連盟理事長  
日本ハーモニカ芸術協会本部長  
関西ハーモニカ連盟特別顧問

## 楽しきかな、わがハーモニカ人生

酒井 涼 爾

### 第 6 話

## 中国の平和な村に鳴りひびいた ハーモニカとラッパの競演は村の珍事だった

中国人姉弟に約束したハーモニカを渡す間もなく、急襲作戦に出動の命令を受け、虎ヒゲの部隊長佃大佐より『全員生還を期すな』とハッパをかけられ、いさゝか悲壮な覚悟で瑞昌を出発したのは昭和15年の初秋であった。

九江から軍用船で揚子江を遡江して漢口に上陸、秋空の下四日間の行軍で湖北省の南河渡に到着した。前の警備部隊が漢水作戦に参加するので、我々が警備を引継いだのであった。

南河渡は平原水郷地帯の戸数五百ほどの小さい村で、私達は中隊指揮班と1個小隊の僅か60名の兵力で、南に50キロの沔陽地区に蟠踞する敵128師(約5千)と対峙しているわけであるが、攻めてくる気配もなく、農産物(棉花、落花生など)に恵まれ、豊かなせいか村人はのどかで落ち着いていて平和で、私達は生還を期さないどころか、半歳にわたる気楽な別荘ぐらしを味わうのであった。(そのくらしぶりは次号に)

そうすると、日夜戦闘つづきの前任地ではハーモニカを手にする事もできなかった私も携行してきた六本のハーモニカを取出して口にするようになった。

私は情報宣撫の責任者として、村の行政指導から医療活動まで、平和なればこそその仕事で忙しかったが、民衆相手の医療活動は人気があり、中国家屋を改装した臨時診療所の前に集まった村人は、はじめて見る私のハーモニカに奇異の目を見はり、分からない曲にも「好々」と相好をくずし歓声をあげるのであった。

聞き伝えた近在の農民も押しかけてきて門前市をなし、二人の衛生兵が作った保革油(靴油)と齒磨粉を練りませた皮膚病の妙薬? やクレオソート(征露丸)の高貴薬? も、なぜか効果靚面で礼として鶏、卵、豚肉、老酒などが運び込まれるなどで、ハーモニカの客寄せ効果は絶大であり、宣撫活動は好調であった。私が村内を歩けば“口琴大人”と呼ばれて中隊長に勝る良い顔になってしまった。

そこに九江の旅団本部で四ヶ月の喇叭手修業を受けていた熊倉保恵一等兵が、指揮班に帰って来た。

彼は私と同じく高田連隊に入隊した同年兵であるが雪の越後から東京に出て、

銀座界隈の風呂屋の三助をしていたと言う。人がよくて割軽な彼は誰からも「熊さん」と呼ばれて愛された。ズングリと小柄ではあるが桜色のよい肉付きをしていて、江西の山岳戦でも、弱った仲間の装具を担ぎ、疲れを知らぬコマ鼠の如く岩山の間を駆け廻っていた。

そんな熊さんに

『お前何をしてそんな体力をつけたり、きれいな肌になったりしたのだ』と聞くと、熊さんは特徴の大きい鼻の穴をますますふくらまして

『銀座の風呂屋で女湯の仕舞い風呂に毎晩つかっちゃったもんナ。何しろ一日何百人というカフェやバーの女のエキスになった湯は、どんな薬よりも精力をつけるからな』

と尻上がりの変てこな江戸弁を使いながらニヤリと目尻を下げるのであった。

五年間に一万人の銀座の女の背中を流してきたと自慢する熊さんは、さすがに若い年令に似合わず女体に関するうんちくは深く、どこまで本当か分からないが夜な夜な微に入り細に亘る女体の話に血気ざかりの私達は悩まされるのであった。

その熊さんが喇叭手修業を終え中隊に帰ってきた第一声は

『俺は小学校しか出ておらんすけ、初年兵の時の学科は最低だったろも、ラッパの修業では、音の良いのは旅団で一番だったば』

と越後弁にもどり、大きい鼻の穴をひくつかせて、日頃の法螺話に劣らぬ大きい法螺ラッパを吹いた。しかし小さい警備隊ではラッパを必要とせず、いつも真鍮のラッパをピカピカに磨きながら髀肉の咬をかつこっていた熊さんにも、遂にラッパを吹く日がやってきた。

夜になると女体ならぬ糸原中隊長や黒岩准尉の肩揉みをしていた彼は、そこで隊長らを口説いたらしく、許可を揉み取ったのだ。

指揮班のある中国家屋の前で、朝日を浴びて一人起立した熊さんは、三百米も離れた丘の上の廟にある畑小隊宿舎に向けて、威勢よく起床ラッパを吹き鳴らした。

さすがに自慢するだけあって、秋の澄んだ空気を切って、静かな村に鳴り響くラッパの音色は嚙喉として見事であった。目を見張る私達に、吹き終った熊さんは『どんなもんだい』と言わんばかりに顔を紅潮させ、大きい鼻の穴をいっそう大きく膨らませた。

一番驚いたのは村人であった。小さい警備隊のいる村ではラッパを聞いたこともなければ、話題もない平和な村に突然のラッパの音は、まさに村開闢以来の一大珍事にちがいない。村人は何事かと屋外に飛び出したり、指揮班の建物を覗いたりした。

このラッパの話は、忽ち湖北平原の周辺の集落々々にも伝わったのであろう。そして僅か60人足らずの小さい警備隊が、何百人かの大きい部隊のように敵側に

伝わったに違いない。

その日から熊さんは、赤い紐のついたピカピカに磨いたラッパを肩に下げて、村のメンストリートを意気揚々と歩くようになった。そして私に

『オメさんはハーモニカ大人と言われて人気があるろも、オレはラッパ大人と言われて村の人が頭を下げるんだ。中さん（中隊長）よりもエレイに違いないな』

と得意満面で言った。以来私達はクラッパの熊さん〴〵の尊称を奉ったのである。

ハーモニカで診療所前に門前市をなした私、ラッパで村人のド肝をぬいた熊さん、そのどちらが平和に貢献したかは比べようもないが、私はハーモニカが音量ではラッパに及ばなくとも、価値の大きかったことを今も信じている。

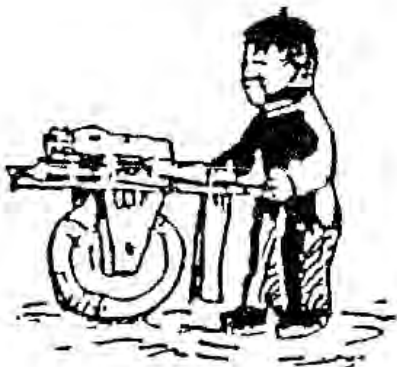
半年にわたるこの地の警備はあまりにも平穩で極楽であった。そして二月初旬の、こゝから南へ10キロの西流河の戦闘（中隊長伝令が戦死）を最後に、再び地獄の戦場江西省に戻った。そして私はやがて後方に下がって軍の学校に入り任官、原隊とも熊さんとも別れるのであった。南河渡の村人も再びラッパの首をきくことはなかった。

あれから半世紀のいま、もし熊さんが生きておれば、孫たちを集めて『ラッパで日本軍を動かした』ぐらいの大ボラを吹いているであろう。

私は戦後20回ほどの中国旅行の度に、懐かしい南河渡の村への再訪を念願したが、遂に平成三年秋実現した。村の石畳のメンストリートは舗道され、新しい家も増え、村人の年代も変わった。しかし黒い屋根瓦に白い壁の村の家屋はそのままであった。たゞずんで目を閉じた私の臉に、あの村人の顔が、熊さんの顔がはっきりと浮かんで来て、ジーンと目頭が熱くなるのであった。

関西ハーモニカ連盟常任顧問

関西ハーモニカポップス会長





## 数字譜で綴られた

# 『青い山脈』

寝床の中でNHKのラジオ深夜便を聴いていたら、作曲家の服部良一さんがこんなことをしゃべっていた。

「『青い山脈』は、大阪の梅田から京都までの電車の中でつくった」、「車窓から山並みを眺めているうちに曲想が浮かんだ。急いで手帳を取り出して、ハーモニカの略譜で書き留めた。

6 0 3 2 3 3 4 3

というわけですね。」

ご存じの方もおられるだろうが、ハーモニカの略譜は音階を数字で表わす、「頭の中ではピアノが鳴っているが、メモは数字。車内は買い出し客やヤミ屋で満員。五線譜など取り出したら好奇の目が集まってせっかくの曲想が逃げてしまう。数字なら商売仲間とみてくれる。ご名算となったところで京都でした」。

服部さんは先日亡くなったから、生前に収録したものだろう。「青い山脈」と並ぶ戦後のヒット曲「東京ブギウギ」も、中央線の電車のつり革が揺れるのに最初の8小節を思いつき、駅前の店に駆け込んでナブキンに書きつけた。電車の中で曲をひねる名人らしい。

国民栄誉賞を贈られた作曲家は、古賀政男に続いて服部さんが二人目。二人は昭和歌謡史の二大巨峰だが、作風は違う。古賀メロデ

ィーを哀愁を帯びた純日本調だとすれば、服部メロディーはジャズの感覚も取り入れた和魂洋才型だろう。

「東京ブギウギ」や「青い山脈」の明るく健康的な歌声は、暗い時代が長く続いたために私たちが忘れかけていた青春を復活させてくれた。ご冥福を祈りたい。



(平成5年3月8日の毎日新聞「余録」に掲載された記事から転載しました)

## How To Enjoy Ensemble (9)

白鳥達夫

## 星の世界

C.C. Converse

♩ = 88

|   |     |                  |  |         |  |                  |  |                      |
|---|-----|------------------|--|---------|--|------------------|--|----------------------|
| 高 | 4/4 | 5 · <u>56531</u> |  | 1 - 6 0 |  | 5 · <u>13153</u> |  | 2 - · 0              |
| 中 | 4/4 | 1 - - -          |  | 1 - - - |  | 1 - - -          |  | 7̣ 4 3 2             |
| 和 | 4/4 | 0 C / /          |  | 0 F / / |  | 0 C / /          |  | 0 G <sub>7</sub> / / |
| 低 | 4/4 | 1 - · 0          |  | 4 - · 0 |  | 1 - · 0          |  | 5 - · 0              |

|                          |  |         |  |                           |  |         |
|--------------------------|--|---------|--|---------------------------|--|---------|
| 5 · <u>5</u> <u>6531</u> |  | 1 - 6 0 |  | 5 · <u>1</u> <u>3217̣</u> |  | 1 - · 0 |
| 1 - - -                  |  | 1 - - - |  | 3 - 5 4                   |  | 3 - · 0 |
| 0 C / /                  |  | 0 F / / |  | 0 C 0 G <sub>7</sub>      |  | 0 C / / |
| 1 - · 0                  |  | 4 - · 0 |  | 5 - 5 -                   |  | 1 - · 0 |

|                               |  |         |  |                          |  |                      |
|-------------------------------|--|---------|--|--------------------------|--|----------------------|
| 2 · * <u>1</u> <u>2342</u>    |  | 3 - 5 0 |  | 6 · <u>6</u> <u>5343</u> |  | 2 - · 0              |
| 7̣ · * <u>6</u> <u>7̣127̣</u> |  | 1 - 1 0 |  | 1 · <u>1</u> <u>3121</u> |  | 7̣ 7̣ 1 2            |
| 0 G <sub>7</sub> / /          |  | 0 C / / |  | 0 F 0 C                  |  | 0 G <sub>7</sub> / / |
| 5̣ - · 0                      |  | 1 - · 0 |  | 4 - 1 -                  |  | 5̣ 4 3 2             |

|                          |  |         |  |                           |  |         |
|--------------------------|--|---------|--|---------------------------|--|---------|
| 5 · <u>5</u> <u>6531</u> |  | 1 - 6 - |  | 5 · <u>1</u> <u>3217̣</u> |  | 1 - · 0 |
| 3 · <u>3</u> <u>4353</u> |  | 4 - 1 - |  | 1 · <u>3</u> <u>5432</u>  |  | 3 - · 0 |
| 0 C / /                  |  | 0 F / / |  | 0 C / G <sub>7</sub>      |  | 0 C / 0 |
| 1 - · 0                  |  | 4 - · 0 |  | 5 - 5 -                   |  | 1 - · 0 |

前号で色々分析しました「星の世界」を、以上のようにまとめて見ました。どうぞ実際に演奏して見て、メロディとリズムに対して中音の担当するバックハーモニーやカウンターメロディの面白さを体験して下さい。

### スケーターズ・ワルツ

E. ワルドトイフェル

Waltz

|   |     |               |  |                 |  |        |  |        |  |
|---|-----|---------------|--|-----------------|--|--------|--|--------|--|
| 高 | 3/4 | <u>55</u> 5 5 |  | <u>66</u> 6 6   |  | 7 - .  |  | 7 0 0  |  |
|   |     | <i>f</i>      |  |                 |  |        |  |        |  |
| 中 | 3/4 | <u>55</u> 5 5 |  | * <u>44</u> 4 4 |  | 74 - . |  | 4 0 0  |  |
| 和 | 3/4 | <u>CC</u> C C |  | <u>D7</u> / / / |  | G7 - . |  | G7 0 0 |  |
|   |     | <i>f</i>      |  |                 |  |        |  |        |  |
| 低 | 3/4 | <u>11</u> 1 1 |  | <u>22</u> 2 2   |  | 5 2 7  |  | 5 0 0  |  |

※ [A]

|           |   |   |  |   |   |   |  |   |    |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
|-----------|---|---|--|---|---|---|--|---|----|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|
| 3         | - | . |  | 5 | - | 6 |  | 6 | -  | . |  | 6 | - | . |  | 4 | - | . |  |
| <i>mP</i> |   |   |  |   |   |   |  |   |    |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 3         | - | . |  | 5 | - | 6 |  | 6 | -  | . |  | 6 | - | . |  | 4 | - | . |  |
| 0         | C | / |  | ∕ |   |   |  | 0 | G7 | / |  | ∕ |   |   |  | ∕ |   |   |  |
| <i>mP</i> |   |   |  |   |   |   |  |   |    |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |
| 1         | 0 | 0 |  | 5 | 0 | 0 |  | 2 | 0  | 0 |  | 5 | 0 | 0 |  | 2 | 0 | 0 |  |

|           |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |           |    |   |   |   |   |   |   |  |
|-----------|---|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|-----------|----|---|---|---|---|---|---|--|
| 6         | - | 7 |  | 7 | - | . |  | 7 | - | . |  | 2         | -  | . |   | 1 | - | 3 |   |  |
| 6         | - | 7 |  | 7 | - | . |  | 7 | - | . |  | <i>mf</i> | 2  | - | . |   | 1 | - | 3 |  |
| ∕         |   |   |  | 0 | C | / |  | ∕ |   |   |  | 0         | Am | / |   | ∕ |   |   |   |  |
| <i>mf</i> |   |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |           |    |   |   |   |   |   |   |  |
| 5         | 0 | 0 |  | 1 | 0 | 0 |  | 5 | 0 | 0 |  | 6         | 0  | 0 |   | ∕ |   |   |   |  |

|   |    |   |  |   |   |   |  |   |    |   |  |   |   |   |  |   |   |   |  |                  |
|---|----|---|--|---|---|---|--|---|----|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|------------------|
| 5 | -  | . |  | 4 | - | . |  | 3 | -  | . |  | 2 | - | 1 |  | 1 | - | . |  | to $\frac{1}{2}$ |
| 5 | -  | . |  | 4 | - | . |  | 3 | -  | . |  | 2 | - | 1 |  | 1 | - | . |  |                  |
| 0 | Dm | / |  | ∕ |   |   |  | 0 | G7 | / |  | ∕ |   |   |  | 0 | C | / |  |                  |
| 2 | 0  | 0 |  | ∕ |   |   |  | 5 | 0  | 0 |  | ∕ |   |   |  | 1 | 5 | 3 |  |                  |

[B]

|   |   |   |  |   |             |  |                |  |               |  |               |               |  |
|---|---|---|--|---|-------------|--|----------------|--|---------------|--|---------------|---------------|--|
| 1 | 0 | 0 |  | 1 | <u>5i6i</u> |  | <u>5i6i5i</u>  |  | <u>6i5i6i</u> |  | 5 <u>7070</u> |               |  |
| 1 | 0 | 0 |  | 1 | 0 0         |  | 3 - .          |  | 3 - .         |  | <i>sf</i>     | 4 <u>4040</u> |  |
| C | 0 | 0 |  | C | 0 0         |  | 0 C /          |  | ∕             |  | 0 G7 /        |               |  |
| 1 | 0 | 0 |  | 1 | 0 0         |  | <i>P</i> 1 0 0 |  | 5 0 0         |  | 2 0 0         |               |  |



|                     |                         |                         |                     |       |
|---------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------|-------|
| 5 <u>7 0 7 0</u>    | 5 <u>2̇ 6̇ 2̇ 5̇ 2̇</u> | 6 <u>2̇ 5̇ 2̇ 6̇ 2̇</u> | 5 <u>1̇ 0 1̇ 0</u>  | ∕     |
| sf 4 <u>4 0 4 0</u> | P 4 - .                 | 4 - .                   | sf 3 <u>3 0 3 0</u> | ∕     |
| 0 G <sub>7</sub> ∕  | ∕                       | ∕                       | 0 C ∕               | ∕     |
| 5 0 0               | P 2 0 0                 | 5 0 0                   | 1 0 0               | 5 0 0 |

|                    |                    |                    |                    |                    |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 1 <u>5 2 5 1 5</u> | 2 <u>5 1 5 2 5</u> | 1 <u>4 2 4 1 4</u> | 2 <u>4 1 4 2 4</u> | 3 <u>5 3 5 3 5</u> |
| P #6 - .           | 6 - .              | #6 - .             | 6 - #5             | #5 - .             |
| 0 G <sub>7</sub> ∕ | ∕                  | 0 F ∕              | 0 F F <sub>m</sub> | 0 C ∕              |
| P 1 0 0            | ∕                  | 4 0 0              | ∕                  | 5 0 0              |

|                    |                    |          |          |       |
|--------------------|--------------------|----------|----------|-------|
| 4 <u>5 4 5 4 5</u> | 3 <u>5 3 5 3 5</u> | 1̇ 0 0 - | :S: Coda |       |
| 7 - -              | 1 - .              | 1̇ 0 0 - | 1 0 0    | 1 0 0 |
| 0 G <sub>7</sub> ∕ | 0 C ∕              | C 0 0 -  | C 0 0    | C 0 0 |
| 5 0 0              | 1 0 0              | 1̇ 0 0 - | 1 0 0    | 1 0 0 |

D.S.

中音パートは地味な伴奏音だけでなく、この「スケーターズ・ワルツ」の A の部分のように、高音パートと同じメロディをオクターブ下に重ねてユニゾンでメロディを強調したり、また次の「オールド・ブラック・ジョー」の初めの部分のようにメロディの方を担当し、高音パートが逆に和音的な動きをすることもあります。

### オールド・ブラック・ジョー

S. C. フォスター

Moderato

|       |                             |              |                             |                              |
|-------|-----------------------------|--------------|-----------------------------|------------------------------|
| 高 4/4 | 1 <u>1·2</u> 3 <u>0 3 3</u> | 4 6 5 4 3 -  | 1 <u>1·2</u> 3 <u>0 3 3</u> | 4 3 <u>2·1</u> 7 -           |
|       | P                           |              |                             |                              |
| 中 4/4 | 1 <u>3·4</u> 5 <u>0 5 5</u> | 6 1̇ 7 6 5 - | 1 <u>3·4</u> 5 <u>0 5 5</u> | 6 5 <u>4·3</u> 2 -           |
| 和 4/4 | 0 C ∕ ∕                     | 0 F ∕ ∕      | 0 C ∕ ∕                     | 0 F 0 ∕ 0 G <sub>7</sub> ∕ ∕ |
|       | P                           |              |                             |                              |
| 低 4/4 | 1 0 1 0                     | 4 0 1 0      | 1 0 1 0                     | 4 4 5 -                      |

|  |                         |                                     |                               |
|--|-------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1 <u>1·2</u> 3 <u>033</u>                | <u>4654</u> 3 <u>03</u> | <u>4·4</u> <u>44</u> <u>3464</u>    | 5 4 3 <u>05</u>               |
| 1 <u>3·4</u> 5 <u>055</u>                | <u>6i76</u> 5 <u>0i</u> | <u>7·i</u> <u>27</u> <u>i656</u>    | 3 2 1 <u>03</u>               |
| <u>0C//</u> <u>0///</u>                  | <u>0F//</u> <u>0///</u> | <u>0G<sub>7</sub>//</u> <u>0F//</u> | <u>0C0G<sub>7</sub>0C/0</u>   |
| 1 0 1 0                                  | 4 0 1 0                 | 5 0 1 4                             | 5 5 1 0                       |
| <u>35</u> <u>05</u> <u>35</u> <u>055</u> | <u>6i76</u> 5 <u>0i</u> | <u>7i27</u> <u>i656</u>             | 3 2 1 <u>05</u>               |
| <u>13</u> <u>03</u> <u>13</u> <u>033</u> | <u>4654</u> 3 <u>03</u> | <u>2342</u> <u>3124</u>             | 5 4 3 <u>03</u>               |
| <u>C/</u> <u>/0</u> <u>//</u> <u>/0</u>  | <u>F///</u> C 0         | G <sub>7</sub> / <u>CAmDmF</u>      | C G <sub>7</sub> C 0          |
| <u>31</u> <u>30</u> <u>31</u> <u>30</u>  | <u>1111</u> 1 0         | 5 5 <u>11</u> <u>44</u>             | 5 5 1 0                       |
| <u>35</u> <u>05</u> <u>35</u> <u>055</u> | <u>6i76</u> 5 <u>0i</u> | <u>7i27</u> <u>i656</u>             | 3 2 1 · <u>0</u>              |
| <u>13</u> <u>03</u> <u>13</u> <u>033</u> | <u>4654</u> 3 <u>03</u> | <u>2342</u> <u>3124</u>             | 5 4 3 · <u>0</u>              |
| <u>C/</u> <u>/0</u> <u>//</u> <u>/0</u>  | <u>F///</u> C 0         | G <sub>7</sub> / <u>CAmDmF</u>      | C G <sub>7</sub> C · <u>0</u> |
| <u>31</u> <u>30</u> <u>31</u> <u>30</u>  | <u>1111</u> 1 0         | 5 5 <u>11</u> <u>44</u>             | 5 5 1 · <u>0</u>              |

こういったアンサンブルを四パートにわけける方法は、四人だけにするばかりでなく、簡単な曲であれば大合奏にもそのまま利用できます。関西ハーモニカ・ポップスは20名を越す大世帯になりましたが、この四パート式の編曲をしばしば使っております。

高音パートは、普通の復音ハーモニカと単音のソプラノホルンおよびクロマチックハーモニカ等

中音パートは、復音のバリトンと単音のアルトホルン、さらにクロマチックハーモニカの16ホール（4オクターブ）のものであれば、高、中両方のパートに使えます。

和音パートは、コードーモニカ

低音パートは、ベースハーモニカ

そして和音、低音に対し、ギターやピアノを使っています。

世界のハーモニカ奏者

“ビート・ピーダスン” 大阪で  
盛大な歓迎レセプション開催

去る4月24日成田空港到着後、各地で演奏活動を続けた世界的ハーモニカ奏者ビート・ピーダスンは、5月4日関西の有志によって迎えられ来阪しました。

翌5日大阪中津のミノヤホールにおいて、ジャズ・ハーモニカの日本のトップ奏者徳永延生氏との共演による盛大な歓迎レセプションが開催されました。会場は予定の定員を遥かにオーバーして超満員の状態となり、途中で入場を停止したほどでした。

この日は特に徳永延生氏のご協力によって、ビバ 近 秀樹 バス 須崎健二 ドラム 田中裕士による一流プレイヤーとの競演とあって、場内は終日沸きあがりビート・ピーダスンも、この関西での催しにはご満足の様子でした。



<演奏曲目>

- 徳永延生                    \*Left Alone   \*Love Me Tender
- PETE PEDERSEN &  
   徳永延生                    \*Satin Doll   \*The Girl From Ipanema
- PETE PEDERSEN            \*Sweet Georgia Brown   \*Have You Met Miss Jones  
   \*Misty   \*Take The A Train
- 徳永延生                    \*Sunflowers   \*You'd Be So Nice To Come Home To
- PETE PEDERSEN &  
   徳永延生                    \*On The Sunny Side Of The Street
- PETE PEDERSEN            \*Grovin' High (Whispering)   \*Body & Soul  
   \*Green Dolphin Street   \*Sophisticated Lady
- PETE PEDERSEN &  
   徳永延生                    \*Autumn Leaves

ビバ 近 秀樹   バス 須崎健二   ドラム 田中裕士



<ビート・ビータスン プロフィール>

アメリカのハーモニカ・プレーヤーとして50年のキャリアを持つベテラン、若い頃、ボニー・ミネピッチの「ハーモニカ・ラスカルズ」のメンバーとして活躍、アレンジャーとしても有名で「ベッグ・オー・マイ・ハート」という曲は、歴史上まれにみるヒットとなった。ソリストとしても活躍し“音楽とコメディ”で世界を回ったり、友人のジェリー・ムラットの「ハーモニキャッツ」のレコーディングに参加したりして、音楽の仕事とハーモニカ・プレーヤーの仕事とを両立させて、世界中を駆けめぐっている。

音楽のジャンルはクラシック、カントリーからジャズ、ニューエイジとなんでもこなし、文字どおり「ハーモニカの魔術師」と呼ばれている。

《 井上隆寿追悼 》  
 & 小林ファミリーの集い

日 時：**7月24日**(土) PM2:00 開演

場 所：京都山一証券ビル 6階

入 場 料：前売**¥2000** 当日**¥2500**

出 演 / 小林忠夫 和谷泰扶(賛助出演)  
 京都ハーモニカ クワルテット 他

曲 目：シャンソンメドレー  
 ハンガリアンエアーズ  
*RUMANIAN RHAPSODY*  
 グレンミラーメドレー 他

主催/京都ハーモニカクワルテット

後援/全日本ハーモニカ連盟  
 関西ハーモニカ連盟  
 関西ハーモニカの友社

(問い合わせ先) 和谷 ☎ (075) 371-7690

## 【 会 員 か ら お 便 り 】

藤 本 初 之 助



お便りありがとうございました。この間、京都の新井さんから丁寧なお言葉をいただき、また あなたからも重ねてお手紙で、全く恐縮しております。

私も撮影所の宣伝係をしていた関係上雑誌の編集は、金魚（らんちゅう）の会の会誌を頼まれたりして、10年ほどはどうかお茶を濁してきたので、ハーモニカの会のそれも他人事でなく、毎号熟読させていただいております。

殊に酒井涼爾氏の「楽しきかな、わがハーモニカ人生」は、私に戦場体験こそありませんが、同じリード・クワルテット仲間の井上隆寿さんが昭和10年頃応召して行き、そのためにクワルテットの中心人物的な井上さんの不在はクワルテットの活動にも支障を来しました。

その井上隆寿さんが、戦後京都府篠山町出身の故渡辺 齊氏の紹介で、関西ハーモニカ連盟として同町公会堂の演奏会に招かれ、翌朝は名物のぼたん鍋をよばれ、腹ごなしに篠山城趾を散歩したことがあります。その時に井上さんから聞きました。

井上さんといえば、当時京都ハーモニカ・リード・クワルテット仲間の故塚脇彰夫氏が徹夜で調整した新品ハーモニカ5・6本を餞別に贈り、輸送船の船内でもそのハーモニカが有名になり、たちまち井上さんは宣撫班として活躍するきっかけとなったそうです。「芸は身を助ける」のことわざを地でいった感じです。

昭和10年から終戦まで戦地において一発の実弾もうたずに過ごされたのも、ハーモニカの取り持つ縁かも知れません。（井上さんは京都府木津町正覚寺の住職でした）

井上さんの他にハーモニカ・クワルテット仲間は、ほとんど亡くなってしまい、わずかに私の学友だった吉川元蔵さんが、現在京都市山科区の方におられるだけで、その吉川さんもいまは心臓病で入院中とのことでした。

さて、酒井さんのことですが、会報に連載中の「楽しきかな、わがハーモニカ人生」は、毎号愛読しています。殊に第5話「貧しい中国人姉弟とハーモニカ」には心をうたれました。折から山本周五郎の江戸時代の貧しい町民の話を読んでいたせいもあったのでしょうか、酒井さん筆の中国人姉弟の絵を見ながら昔そんな幼い子供だった人たちの人生をふと考えることでした。どうか、心やさしい酒井さんによるしくお伝え下さい。

平成5年5月14日

仲村 眞 様

藤本 初之助

（ 連 盟 顧 問 ）

**宇治市 '93 Music  
フェスティバルに  
宇治ハーモニカ・スクールが出演**

去る7月4日(日)宇治市音楽連盟の主催により同市のコーラス団、室内合奏団、マンドリン・アンサンブル等の20団体に、宇治ハーモニカ・スクールが加わるハーモニカ合奏があり、ハーモニカ音楽の認識を一層高めました。

と き 平成5年7月4日(日) 午後1時  
と ころ 京都府宇治市 宇治文化センター大ホール

主 催 宇治市音楽連盟  
後 援 宇治市教育委員会

宇治ハーモニカ・スクール～演奏曲目

①アニーローリー ②スワニー河 ③山の人気者

**第7回 北千里ハーモニカ・  
ファミリー・コンサート**

去る4月11日(日)、北千里地区公民館において、北千里ハーモニカ・ファミリー第7回ハーモニカ・コンサートが開催されました。今年は同じ公民館の「童謡教室」の友情出演を得て、楽しい催しとなりました。

と き 平成5年4月11日(日曜日) 午後2時  
と ころ 吹田市 千里地区公民館

【プログラム】

|     | ( 曲 目 )       | ( 出演者 )  |       | ( 曲 目 )   | ( 出演者 )  |
|-----|---------------|----------|-------|-----------|----------|
| 合 奏 | さくらさくら        | 全 員      | 独 奏   | いい日旅立ち    | 竹市 源     |
| 同   | アマリリス、野バラ     | あ や め    | 合 奏   | 背くらべ      | あ や め    |
| 独 奏 | ホームスイートホーム    | 島田克己     | 四重奏   | 山のロザリア    | 1st 有光 望 |
| 二重奏 | ユーモレスクに寄せて    | 有光 望     |       |           | 2nd 讚良宏子 |
|     |               | 中島正子     |       | バス 竹市 源   | 3rd 竹市繁美 |
| 独 奏 | 早春 譜          | 讚良宏子     | 独 奏   | 花嫁人形      | 北森貴子     |
| 合 奏 | もみじ、故郷        | あ や め    | 同     | ここに幸あり    | 阿部裕子     |
| 合 奏 | 月の砂漠 すみれ、ひまわり | 特別出演     | ピアノ独奏 |           | 銭谷あゆみ    |
|     | バス 岸川侑子       | 3rd 来田禮瑛 |       |           |          |
| 三重奏 | おぼろ月夜         | 3rd 中島正子 | 合 奏   | 世界は二人のために | 3rd 讚良宏子 |
|     |               | 近藤末子     |       | 高原列車は行く   |          |
|     | バス 北森貴子       | 3rd 阿部裕子 |       |           |          |



**尼崎ハーモニカ・エコーズ**  
 '93 ひょうごまちなみ  
 ガーデンショーに出演

花と緑の文化の創造をめざし、兵庫県等が主体となって去る5月4日～9日まで「'93 ひょうごまちなみガーデンショー」が開催され、これに尼崎ハーモニカ愛好会（今回から内容も充実され名称を「尼崎ハーモニカ・エコーズ」と改めました）が出演し、人気を集めました。

と き 平成5年5月9日（日） 午後3時～3時30分  
 ところ 兵庫県庁前 県民オアシス  
 主 催 ひょうごまちなみガーデンショー実行委員会  
 兵 庫 県 （社）兵庫県造林緑化公社

演奏曲目

△丘を越えて △魔法使いのサリー △アンパンマンのマーチ △ふるさと  
 △おぼろ月夜 △背くらべ △鯉のぼり △野に咲く花のように △四季の歌  
 △町の小さな靴屋さん △クワイ河マーチ △六甲おろし、

**京都 - 河原町で**  
**楽しいハーモニカ・コンサート**

さる4月25日、京都十字屋がご自慢のVOXホールで、小林忠夫先生の指導する各教室の、定期演奏会ともいえるコンサートが開催されました。

と き 平成5年4月25日（日曜日） 午後6時  
 ところ 京都市中京区河原町三条下がる一筋目東入 VOXビル 4階  
 主 催 株式会社 クリエイティブ・コンセプト

【プログラム】

|         |     |             |       | 総合司会進行 飛田 保雄 |      |              |              |
|---------|-----|-------------|-------|--------------|------|--------------|--------------|
| ( 曲 目 ) |     | ( 出演者 )     |       | ( 曲 目 )      |      |              |              |
| 1       | 復音  | 月の法善寺横丁     | 神村 勲  | 13           | 知モカ  | 明日にかける橋      | 梅本 淳子        |
| 2       | 知モカ | マイウエイ       | 浅見 満夫 | 14           | 復音   | ふるさとの燈台      | 脇本 洋子        |
| 3       | 復音  | 黒いパイプ       | 小西善三郎 | 15           | 知モカ  | 荒野の用心棒       | 長浜 忠夫        |
| 4       | 知モカ | エーデルワイス     | 川本 健治 | 16           | 復音   | ラ・クンバルシータ    | 谷口 昌子        |
| 5       | 復音  | 命くれない       | 中瀬 清  | 17           | 知モカ  | テイクファイブ      | 木下加奈美        |
| 6       | 知モカ | ロッドリッ の歌    | 浜島 寿夫 | 18           | 復音   | パリの空の下       | 村田 潤         |
| 7       | 復音  | 奥様お手をどうぞ    | 三原 光子 | 19           | 知モカ  | 春 の 海        | 新井 善久        |
| 8       | 同   | 荒城の月、知モカ    | 味木 繁喜 | 20           | 復音   | アムステルダム      | 上本 洋         |
| 9       | 知モカ | ユーモレスク      | 饗庭 茂  | 21           | 知モカ  | インザムード       | 和谷 薫樹        |
| 10      | 復音  | かえり船        | 時久 宏  | 22           | 復音   | チャルダッシュ      | 小林 忠夫        |
| 11      | 知モカ | ハンガリア舞曲No.5 | 飛田 保雄 | 23           | 全員合奏 | 琵琶湖周航の歌・祇園小唄 | 道頓堀行進曲・六甲おろし |
| 12      | 復音  | 黒い瞳         | 楠田 華子 |              |      |              |              |

日本ハーモニカ芸術協会関西支部連合  
 第7回 アンデパンダン・ハーモニカ  
 コンサート・華やかに開催されました

日本ハーモニカ芸術協会関西支部連合会の主催によって開催されたこのコンサートは、回を重ねるごとに出演者が増加し、特に近年はアンサンブル熱の上昇によってハーモニカ教室からのアンサンブル出演が目立っており、演奏技術も一段と充実し、ハーモニカ・コンサートは益々楽しさが増してきました。

と き 平成5年7月3日(土曜日) 正午 開演  
 ところ 神戸市東灘区住吉東5丁目1-16 神戸市立東灘区民センター 大ホール  
 主催 日本ハーモニカ芸術協会関西支部連合会  
 後援 全日本ハーモニカ連盟 関西ハーモニカ連盟  
 入場料 無 料

【プログラム】

| 第1部       |                  |                     | 第2部       |                    |                            | 司会 山下史子 |  |
|-----------|------------------|---------------------|-----------|--------------------|----------------------------|---------|--|
| (種別)      | (出演者)            | (曲目)                | (種別)      | (出演者)              | (曲目)                       |         |  |
| 1 アンサンブル  | 尼崎ハーモニカ<br>エコーズ  | ①森の小人<br>②町の小さな靴屋さん | 17 アンサンブル | 北千里ハーモニカ・<br>ファミリー | ①雨夜花(ウヤヒ)<br>②世界は二人のため     |         |  |
| 2 独奏      | 平口 謙二            | 箱根の山に寄す             | 18 独奏     | 畑 婦美子              | 金 婚 式                      |         |  |
| 3 同       | 古田 豊江            | 遠くへ行きたい             | 19 同      | 壇 和雄               | 涙の連絡船                      |         |  |
| 4 同       | 吉岡 とみ子           | 琵琶湖周航の歌             | 20 同      | 飛田 保雄              | ハンガリアン舞曲第5番                |         |  |
| 5 同       | 寺田 敏雄            | 古 城                 | 21 同      | 渡辺 昇               | さくらのワルツ                    |         |  |
| 6 同       | 千田 清忠            | 小さな喫茶店              | 22 アンサンブル | 牧野ハーモニカ<br>アンサンブル  | ① 乾 杯<br>② 埴生の宿            |         |  |
| 7 同       | 今井 康郎            | ヴォルガの舟唄             | 23 独奏     | 西谷 喜美子             | 青葉の笛幻想曲                    |         |  |
| 8 アンサンブル  | 牧野ハーモニカ<br>カルテット | ① 月の砂漠<br>② 故郷の廃家   | 24 同      | 寺村 安雄              | 悲 しい 酒                     |         |  |
| 9 独奏      | 井崎 カズ子           | アラビアに行く             | 25 アンサンブル | 奈良ハーモニカ<br>同好会     | ①こどもの世界<br>②瀬戸の花嫁          |         |  |
| 10 同      | 中川 敬一            | リラのタンゴ              | 26 独奏     | 後藤 貞男              | 愛 の 喜 び                    |         |  |
| 11 同      | 神戸 榮一郎           | 夕陽小唄変奏曲             | 27 同      | 仲村 眞               | ウィリアムテル 序曲より               |         |  |
| 12 同      | 松川 義明            | ハーモニカ・ウェスタン         | 28 同      | 屋嘉比盛行              | 新 内 流 し                    |         |  |
| 13 同      | 猪飼 幸太郎           | タンゴ花嫁人形             | 29 同      | 山村 信彦              | シェーベルのアベマリア                |         |  |
| 14 同      | 村上 浩一            | 青いカナリヤ              | 30 同      | 吹上 晴彦              | 荒 城 の 月                    |         |  |
| 15 同      | 西田 幸司            | シャンソンド・パリ           | 31 同      | 吉森 正隆              | 牧 民 新 歌                    |         |  |
| 16 アンサンブル | エコーズ・<br>グリーン六甲  | ① 青い山脈<br>② 山小舎の灯   | 32 アンサンブル | 関西ハーモニカ・ポップス       | ①十二番街のラグ ②こころ酒 ③夜のフラット・ホーム |         |  |

関西八一モ二力連盟

平成5年7月15日発行 第117号

発行責任者 理事長 仲村 眞

〒545 大阪市阿倍野区三明町2-6-10

発行者 事務局長 新井 善久

〒600 京都市下京区花屋町通西洞院東入563

編集者 編集局長 上野 忠彦

〒576 交野市星田 8-2-14